

神戸の田舎「櫛谷」新発見

晩秋の西神戸 ゆったりとした神戸の田舎 《櫛谷》 2015.11.28.

櫛谷街道に沿って 西神戸の田園風景の中に建つ小さなチャレタお店が人気に



以前から気になっていた西神戸の田舎「櫛谷」。西神ニュータウンに隣接し、南北になだらかな丘陵地の間に延びる近郊農業で暮らす集落が点在するとともに、古いお寺もあり、その歴史は古いと聞く。何度か櫛谷を通過したこともあるのですが、印象に残っていない谷筋。

季節を感じたくなるといつも西へ 西神戸の田園地帯を眺めながら、加古川の土手へ原チャリを走らすのですが、その途中 この櫛谷も横切ってゆく。最近 この都市近郊の田舎「櫛谷」にも 若者や新しい人たちが新感覚で、地元の魅力・素材を発見し、それらを組み入れた新しい店づくり。それがまた新しい人を呼ぶ。規模はまだ、ささやかながら 田園風景の中にある新しい魅力ある街として、周辺の人達の話題に上るようになってきた。

「お仕着せの地方創生」・「ソアトのない箱モノづくり」等々旧態依然とした政治家の唱える「地方創生」とはちょっと違った地域クリエイティブな街づくりが、神戸近郊でも見られるようになってきました。

地方創生の新しいビジネスモデルになりうるのか?ま だよくわかりませんが、近くには神戸・明石の境 都市近郊の田舎に開学した大学をきっかけに発展した明石伊川谷「有瀬の街」の例もある。

そんな西神戸の田舎の新しい街「櫛谷」の紹介。

この櫛谷の街の話は何度か聞く機会があり、

「なんでもみてこよう 行ってこよう」の好奇心にかられて 快晴のポカポカ陽気の晩秋 11月28日 この櫛谷へ出かけました。

西神ニュータウンに隣接した田舎「櫛谷」。この「櫛谷」の街道筋を活性化させようとの取組みが始まっている。巷の話では下記 櫛谷の道筋にある店はおすすめ ぜひ行ってみたいと聞く。

- 神戸牛牧場と JA 六甲がコラボした櫛谷で飼育される神戸牛のお肉(六甲牛)と櫛谷の野菜直売の複合店「マルシェ兵庫六甲」
(レインボーショップ櫛 & 六甲牛牧場直営店)
- 数々の小分けした餡子の直売 とおいしいおばざやういろなどを買えるしゃれた餡子(あんこ)屋さん「池田製餡所」
- ◆ 櫛谷の枝谷のどん突にある古刹 如意寺 西神戸のパワースポットか?

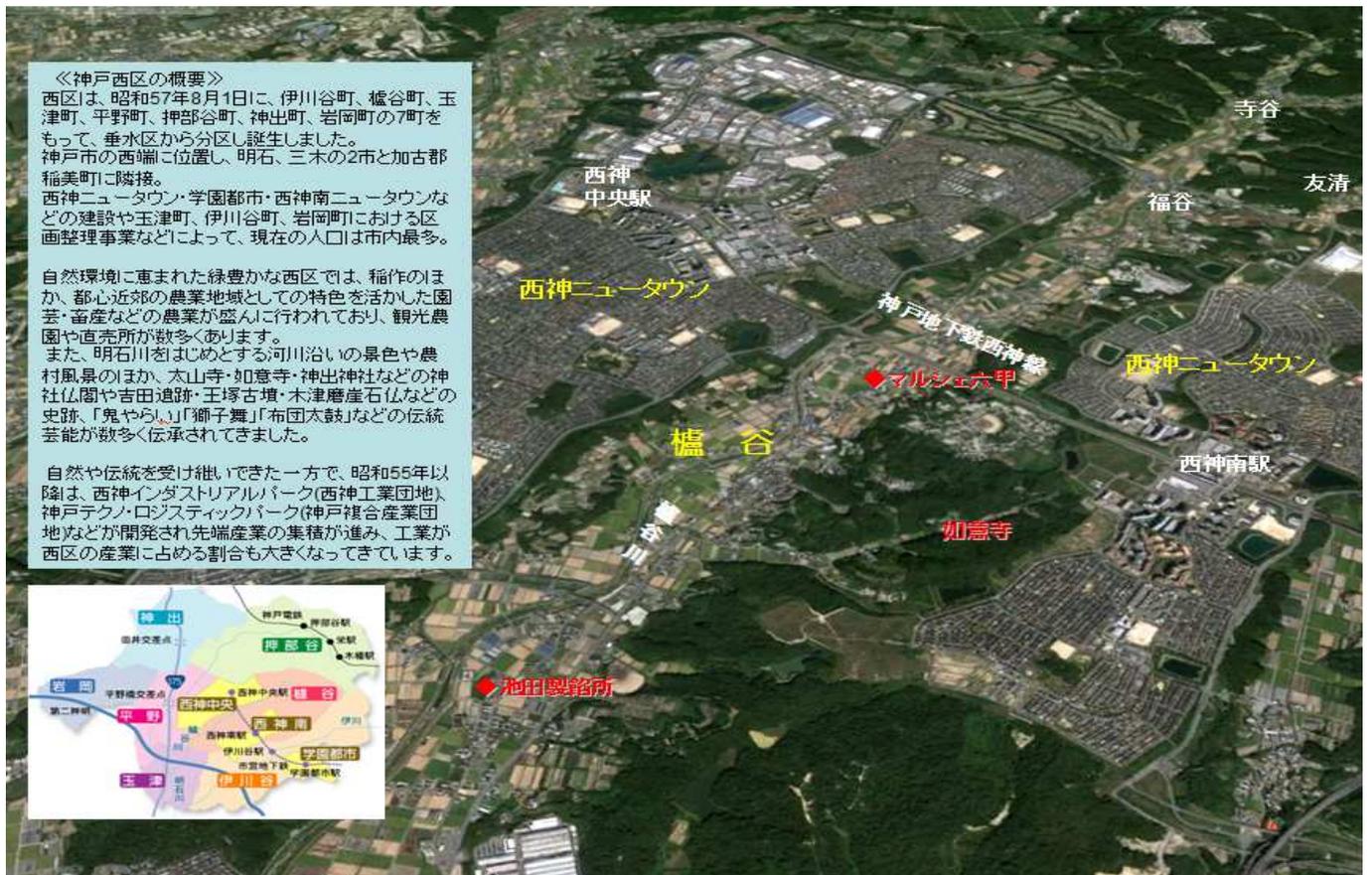
野鳥が飛び交う静かな森に包まれて ひっそりと重文に指定された塔とお堂のある古刹 如意寺。なんとも心地よいパワースポットとでもいうべき心地よい空間が、櫛谷の奥にある。晩秋 里山の紅葉とともに青空にトビが舞い、三重の塔が快晴の空に映える景色は 喧噪の中での紅葉見物とは来たまた違った素晴らしい景色。



神戸市街地の北西に広がる西神戸の丘陵地が広がる西神戸の田園地帯を西へ 白川峠・布施畑からトンネルを抜け、友清集落に出たところが「櫛谷」。 道脇に櫛谷神社があり、南北に広がる櫛谷を高架で渡って西へ抜けてゆく。家から原チャリや車で15分ほど。両側を小高い丘陵地に挟まれた櫛谷の中 中央の街道に沿って両側に家並と田園が広がり、西神戸の典型的な田園風景が広がっている。いつも高架から季節折々の田園風景を眺めながら通過するのが楽しみな谷である。今日は高架の下へ降りて、県道小部明石線「櫛谷街道」が走る櫛谷の集落の中を南へ。しゃれたちっちゃなお店ですが、ロコミで広がる周辺のニュータウンなどの人達が訪れる人気のスポット。また、如意寺は狭い谷あいの野道の先に 大きな仁王門があり、その先の谷筋のどん突に、神戸にいることを忘れてしまう静かな森に包まれて 突如 紅葉した境内に 立派なお堂と三重の塔が現れました。 緑の森の空高く、トンビが空を舞い、パワースポットというか 巷と切り離された心地よい空間。 こんな素晴らしい建造物が西神戸にも立派に保存されて残っている。京都にも負けない紅葉も……………。

また暗いお堂の中に座す阿弥陀如来像が差し込む光に本当に美しい。これが本当のお堂の自然な姿と……………。

そんな 西神戸 ゆったりとした晩秋の神戸の田舎「櫛谷」 心地よいスポットを紹介。



マルシェ JA 兵庫六甲

池田製菓所

古刹 如意寺

櫛谷の中の街道筋 田園風景の中に点在する新しいお店 & お寺

● **神戸牛牧場直営店** 神戸牛牧場と JA 六甲がコラボした神戸牛のお肉と近郊野菜の直売の複合店「マルシェ兵庫六甲」内「神戸ビーフ」多くの人が憧れる国産牛肉。神戸に居ても神戸ビーフの専門店へ行って「神戸ビーフ」をとはいそれではいかぬ。でも さすがに本場 神戸では ごく普通に 精肉店で肉を買って食べてもおいしい。また、神戸の山麓には神戸牛を育てる牧場や神戸牛の卸をする会社が幾つかあり、それらの直営店へ行くと安くてうまい肉が手に入る。

西神戸には そんなところが数か所あり、街のスーパーや農協とタイアップしているところもあり 休日には大繁盛する。

この櫛谷の一番北の寺谷の丘陵地の中に、古くから神戸牛を飼育する牧場があり、何度か牛を見に行っただけなのですが、その牧場が櫛谷の南に JA 兵庫六甲とコラボして、JA 櫛谷の野菜直売の店と一緒に神戸牛(六甲牛)の直営店を出している。



きれいな都市感覚の店づくりの中 近くでおいしい神戸牛の肉とその加工品並びに近郊野菜の産地櫛谷の朝どりの野菜が求められるので 最近周辺の人達の人気になっていると聞く。



櫛谷マルシェ六甲内 神戸牧場直営店ホームページより <http://www.kobe-ushi.jp/shop/>



神戸三木線布施畑からまっすぐ西へ神出へ出る神戸の裏街道 もしくは山麓バイパスを西へ西神ニュータウンに向かい、10分余りで 西神戸の丘陵地 櫛谷の中を北東から南西へ下ってくる県道小部明石線 櫛谷街道と交差する。この櫛谷街道を南へ少し下ったところ、家並みが続く街道筋 櫛谷の真ん中あたり 福谷集落の JA 兵庫六甲の櫛谷支店と道を挟んで向かい側に 神戸肉と櫛谷近郊野菜の直売の複合店「マルシェ兵庫六甲」内に神戸牛牧場の直営店がありました。私には 肉や野菜の値段や品質にはトント疎いのですが、「安くて新鮮」で この櫛谷よりさらに西にある JA 兵庫六甲の「六甲の恵み」まで会に遊館で済むという。

● 「池田製餡所」 数々の小分けした餡子の直売 とおいしいおはぎやういろなどを買えるしゃれた餡子(あんこ)屋さん



原チャリを走らせていて、櫛谷の道端に「池田製餡所」の看板を見かけたときには、和菓子屋やパン屋に「餡」を卸す会社があるんだと思っていました。インターネットにあるチラシに「おはぎを買い求められる店」だと書いてあって、結構周辺の人に人気があると……。今度通った時にはぜひ立ち寄ってみよう。

先日 久しぶりに明石から帰る途中 まっすぐ北に原チャリを走らせていて、櫛谷の中へ。

そして、「池田製餡所」の看板を見つけて、標識に従って一つ西側の弓道に入ると 田園地帯の中にぽつんと「おはぎ」の旗がはためく一軒家「池田製餡所」がありました。外観は古ぼけた一軒家。でも中をのぞくときれいにディスプレイされてお菓子屋風。

おはぎや羊羹・ういろなどが並び、製餡所の「あん」も小さなビニール袋にパックして並び、「おしるこのあん」もありました。ういろや羊羹の試食もあり。一つ手を出すと山口で食べなれた「生ういろ」の味。「いける」と。帰って ぜんざい好きの家に言うに「人づてに聞いたことあるが、場所がよくわからぬ」と興味津々。

また、後日 家内と二人出かけて おはぎやういろなどを買っておやつに。この櫛谷も西神戸イチジクの産地 イチジク時にはイチジクの餡も作るという。季節の折々にジャムなど造ルカ内などうれしい店が見つかったと。



池田製餡所のある 櫛谷 松本周辺 (左 写真中央池田製餡所 右 北西 丘陵地の上 西神ニュータウン)

(google earth より)

よく知らなかったのですが、池田製餡所のホームページにこの「櫛谷」が源氏物語に登場する地だと初めて知りました。源氏物語十三帖「明石」に登場する明石の君が住む「岡之屋形」の場所で、光源氏がこの岡之屋形を訪ねたという。豊かな緑を育む清らかなせせらぎの里「櫛谷」。源氏物語千年の里へ訪れる歴史ファンも、近年多くなったと知りました。池田製餡所横の農道を西へ 櫛谷川左岸近くに「岡之屋形」の碑が建っていました。



◆ 櫛谷の枝谷のどん突にある古刹 如意寺 西神戸のパワースポットか？



如意寺 山門



阿彌陀堂と三重塔



文殊堂



地下鉄高架の南側 JA 兵庫六甲や神戸牛牧場直営店がある長谷集落を抜けて すこし南へ櫛谷街道を下ったところで
 小さな小川 谷口川に架かる橋があり、この川岸に 天台宗如意寺の案内標識があり、この川に沿って東に広がる谷口集落
 の一番奥 狭い谷筋に如意寺がある。

摂津・播州の国境の丘陵地 西神戸は古くから開けた
 地で、西神戸の丘陵地にはいくつも古い行事を守り伝
 えるお寺や神社が残っており、ふと 標識を見て 丘
 陵地の谷筋へ入って行くとびっくりするお寺に出会
 うことがある。

前開 高和の性海寺や押部谷近江寺 伊川谷 太山寺
 稲美の高菴寺等々である。

この櫛谷にある如意寺も何度か標識を見て そのう
 ちに・・・とっていましたが入ったことなく、
 今回 谷川集落の奥に初めて入って、素晴らしい古刹があるのを初めて知りました。



櫛谷街道から、谷口川沿い 如意寺への入り口

如意寺は大化元年 (645 年) 法道仙人が多聞天の教化により当山に櫛の木に刻んだ地藏菩薩と
 毘沙門天を祀ったのが起源と伝えられる山あいの谷間にひっそりとたたずむ歴史のある寺。

文殊堂(1453年)、阿彌陀堂(鎌倉初期)、三重塔(1385年)が重要文化財に指定されている。

現在 山門は伽藍からずいぶんと離れて 往時には広大な寺院だったようだ。

ちょうど 晩秋 静かな森に包まれて 境内は紅葉が真っ盛り。

重文の立派な建物の上 青空にとびが舞い 神戸の田舎にこんな美しい景色があったのかと



櫛谷街道から東へ 谷口集落を抜けると人家のない視界の開けぬ狭い谷筋 その奥に如意寺 google earth より
 谷口集落を東に抜けると 狭い農道が枝谷の奥へ続いていて、間もなく突如 山門が突如現れ、お寺は見えず、びっくりする。
 さらに奥へと 誰もいない狭い谷筋の農道を進むと間もなく立派な「如意寺」の石碑の前に 如意寺の阿弥陀堂が背後に三重
 塔を従えて現れる。 西神ニュータウンに接して、人里離れたこんな場所があるのか……と。

晩秋 だれ一人いない静かな境内は真っ赤な紅葉がお堂を飾り、素晴らし景色を独り占め。

周りの森はちょうどや野鳥の休息の場なのか 大空にも鷺がゆっくりと弧を描く。



国指定重要文化財

如意寺 常行堂・三重塔・文殊堂

指定年月日 昭和27年7月19日

所有者・管理者 如意寺

比金山如意寺は、今から千年ほど前、願西上人によって開かれたとされる天台宗の古刹で、地藏菩薩を本尊としています。12世紀頃の古文書に「地藏堂に土地を寄進する」という記述があることから、その頃に寺観が整いつつあったようです。寺院所蔵の文書群には、中世から近世にかけて隆盛を誇った当寺の姿が生き生きと示されています。そして、幸運なことに、このことは境内に残る三棟の中世建築によって今もはっきりと感ずることが出来ます。今は礎石のみを残す本堂を中心に西に阿弥陀堂、東に三重塔、南に文殊堂と建物を配置する方法は、近隣の太山寺とも共通し、天台宗独自のものであるとされています。

【常行堂(阿弥陀堂)】

常行堂は、常行三昧という天台宗の重要な修行のためのお堂で阿弥陀如来を本尊としています。応永13年(1406)、寛文12年(1672)に大きく改修されていますが、院政末期(12世紀末～13世紀はじめ)に建てられた市内最古の建造物です。素朴で落ち着いた雰囲気をもつお堂の姿も見事ですが、内部の阿弥陀如来(市指定有形文化財)も建物と同じ時代に造られた素晴らしいお像です。このように建物と仏像が造られた当時のまま伝わっていることは、めずらしく、大変貴重な文化財です。

【三重塔】

阿弥陀堂と対面した高台に立つ三重塔は、元和5年(1619)の修理の際に発見された龍車(塔上部の相輪の部材)の刻銘によって至徳2年(1385)に建てられたことが分かります。軒の出が深く美しい純和様の建造物で三層各階には、それぞれ大日・釈迦・多宝如来を安置して法華経と密教思想の融合を表わしています。

【文殊堂】

伽藍の南端の傾斜地に建てられる文殊堂は、懸造様の高床を持つ建造物です。建立年代は、様式手法からみて応永13年(1406)の罹災後と考えられ、卷斗の「癸酉」という墨書銘が示す1453年であるとする意見もあります。他の諸堂と同じく江戸時代に修理が加えられていますが、聖僧文殊を安置する内部の厨子とともに時代の特徴を良く示している建造物です。

如意寺には、この他にも鎌倉時代唯一の大型塑像として知られる仁王像(県指定有形文化財)なども伝えられ、この地域に独自の文化が存在したことを教えてくれます。

周辺にせまった開発とは別天地のような中世的な場に我々を誘ってくれる如意寺。このような魅力あふれる場を、次代へ守り伝えていくことが今を生きる我々に課せられた使命でしょう。

平成24年3月 神戸市教育委員会



櫛谷 谷口川沿い 静かな森に包まれた古刹 如意寺 2015.11.20.

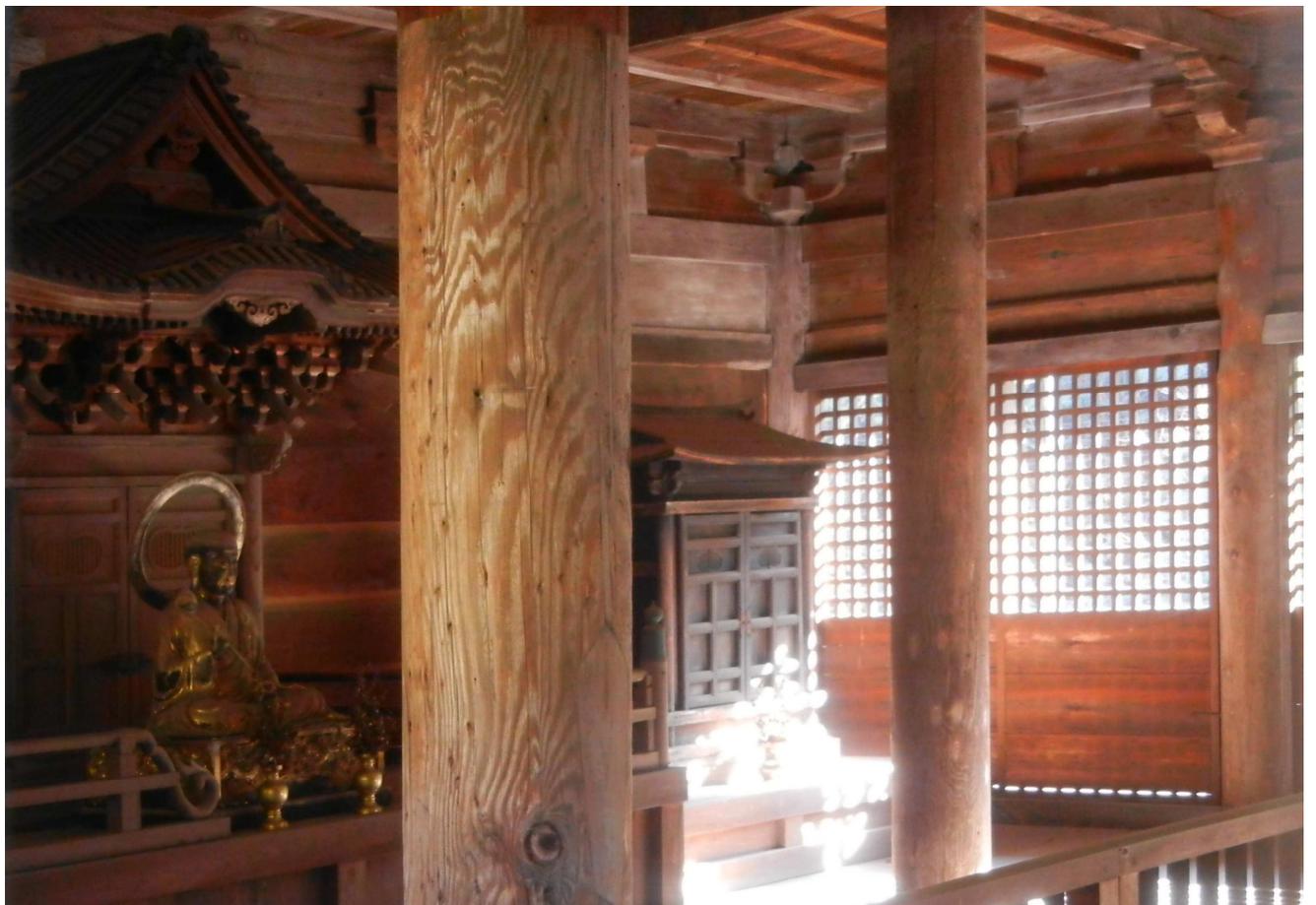


紅葉した櫨谷 如意寺境内と三重塔 2015.11.20.

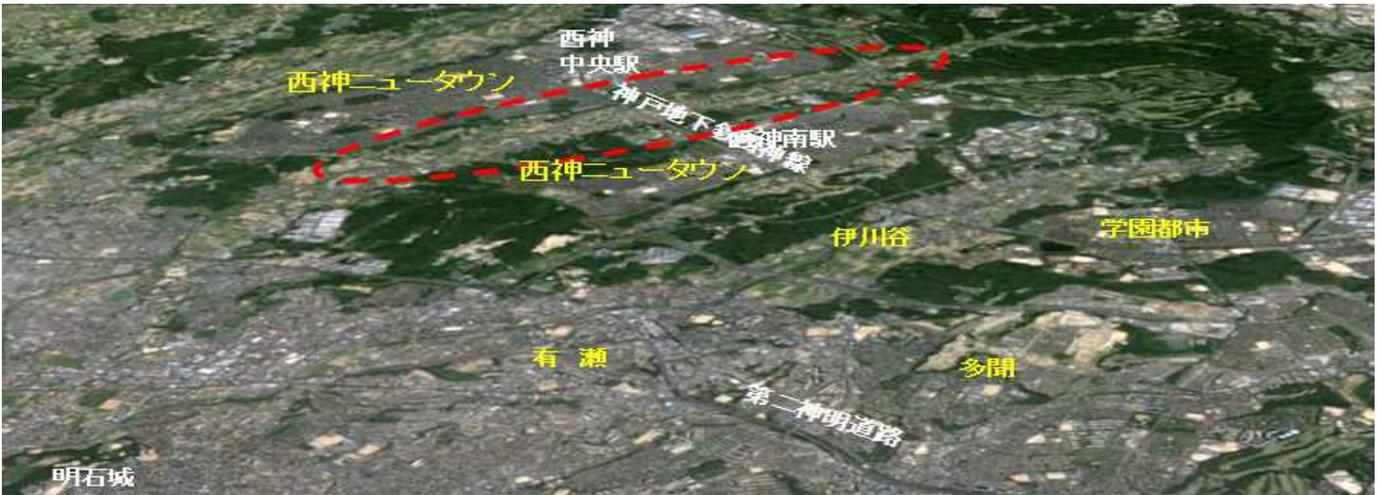


紅葉した櫓谷 如意寺境内

2015.11.20.



阿弥陀堂 格子から差し込む光の中に 坐す阿弥陀如来像 2015.11.20.



この秋 ふと入った西神戸「櫛谷」

観光地に求めなくても いにしへの古刹・自然など 楽しい景色や人の暮らし等々 心地よい空間が広がっている。また、広がる田園には フレッシュな農産物 地産地消の宝庫。そして シャレタ 都会感覚の店も 疲弊しきった田舎とはまた違ったニュー感覚の田舎がありました。

両側を西神ニュータウンが広がる丘陵に挟まれて南北に広がる狭い谷「櫛谷」。近郊野菜や果樹園の農場などでんえんちたいがひろがる西神戸の田園地帯で、古くから摂津・播磨国境を越えてゆく街道筋として開けた地でもある。

両側に広がるニュータウンを結ぶ地下鉄や幹線道路がこの「櫛谷」の中央を東西にわたり、また南には明石や西神戸の市街地が広がっている。西神戸には都市開発されたニュータウンの間に取り残されたかのように小さな谷筋に田舎の景色を残す田園地帯がいくつも残っている。

そんな谷筋の一つ「櫛谷」でも ニュータウンに住む人たちと昔ながらの集落の人達との間に数々の交流が生まれ、住民それぞれの新しい相互依存の形態が生まれている。

地産地消に農産物の直売場が取り結ぶ田舎の価値の再発見と都市住民のふるさとづくり。そして若者たちのニュービジネスの場としての田舎の提供等々。

常にビッグ化・大量消費に飲み込まれてしまう都市とは違う価値感が田舎にはある。疲弊してゆく地方を復活させるには 「右向け右」の号令型中央指導の「地方創生」ではどうにもならぬのは誰も承知。でも 出口の見えぬ今 たまには ゆっくり田舎を車ではなく自分の足で歩いてみるのも 新感覚・新しい知恵のもとと。

神戸の田舎 西神戸を眺めるといざるところで 都市と田舎集落の交流が生まれ、田舎も大きく変貌し始めている。まだまだ 都市や大企業それに農協にも 飲み込まれてしまう危うさはあるが、新しい田舎の価値が 疲弊した地方や中央一極集中を打ち砕いてくれるかもしれない。田舎も今大きく変わる。その原動力はやっぱり 若者の力。若者が力をつけないと日本の未来はないなあ・・・と。

